

小雨の中、健脚競う

第44回河田杯マラソン

陸上競技シーズンの幕開けを告げる恒例の河田杯マラソンが4月22日、北秋田市役所本庁舎前をスタート・ゴール会場として開催されました。

河田杯マラソンは、戦前から長距離ランナーとして全国的に知られた旧鷹巣町の故・河田康雄さんの遺志を継承し、次代を担う選手の育成などを目的に開催されているもので、今年で44回目の開催。主催は北秋田市、(財)北秋田市体育協会および大館市・北秋田市・北秋田郡陸上競技協会。

大会には、北秋田市内の小・中・高校生のほか、県内からおよそ220名余りが参加、肌寒い天候の中、健脚を競い合いました。



スタートする中学校女子・一般女子

みんなで交通事故防止に努めます

合川南小学校 交通安全推進隊任命式

合川南小学校(松尾昭校長)の交通安全推進隊任命式が4月12日、同校で開かれ、6年生15人が交通安全推進隊に任命されました。式では、松岡合川支所長が「任命された6年生のみなさんは、下級生を引っ張りながらこれから1年間たくさん活躍してください。この地域から交通事故が少なくなることを願います」と激励の言葉を述べました。

最後に、全校児童で交通安全推進隊の合い言葉「交通安全への誓い」を新たにしました。

同校では、毎年6年生を交通安全推進隊に任命し、春の交通安全運動期間中には、ドライバーへの安全運転を呼びかけるなど啓発活動を行っています。



交通安全推進隊に任命された6年生15人



ゴミ拾いに汗を流す(あけぼの町地内)

快適な生活環境保全に

春のクリーンアップ

市内の各地区で4月24日、早朝から住民総参加によるクリーンアップ活動が行われ、各町内・自治会とも地域住民総出で1時間ほどにわたり、道路沿いや河川敷、公園などのゴミ拾い、どぶ上げなどに汗を流しました。

クリーンアップは、毎年春と秋の2回行われているもので、春は冬期間に捨てられたゴミが雪消えとともに目立つようになるこの時期に実施されています。昨年までは旧町単位で別々の日程で行われていましたが、今年の実施日を統一し全市一斉に行われました。

最近、美化意識が高まってきてはいるものの、空き缶やペットボトルなど捨てられたゴミがまだまだ目についていました。



スイセンが咲く米内沢阿仁川堤防沿い

年々華やかさを増す堤防沿い

春の訪れを告げるスイセン

米内沢地区阿仁川堤防沿いのスイセンが見頃を迎えており、歩行者やドライバーの目を楽しませています。

このスイセンは、平成12年から2カ年で地域の方々や各団体によって植えられたもので、今では分球も進み、年々、黄色のじゅうたんのように広がりを見せています。

スイセンの咲いている河川敷は、今年の豪雪のために雪捨て場として利用されていたこともあり、そばにはまだまだ雪が山のように残っていますが、例年、ゴールデンウィークに見頃を迎える堤防沿いの桜が満開になるまでの地域の春の風物詩となっています。

ひまわりの家利用者70万人

松ヶ丘の男性に記念品

平成4年10月にオープンした大野台老人福祉総合エリア「ひまわりの家」で、4月12日、入館者数が70万人を達成しました。

70万人目の入館者となった松ヶ丘の成田稔さんには、花束と記念品が贈られ「とにかくびっくり。70万人目になってよかった」と話してくれました。また、前後賞の方にも記念品が贈られました。

同施設は県内でも珍しいソーラパネル給湯の大浴場やサウナ、休憩室、多目的ホール、カラオケ付き大広間など充実した設備があり、平成13年11月に50万人、平成15年10月には60万人の入館者を達成しています。



70万人目の成田さんに花束と記念品を贈呈

4頭の小熊が誕生

マタギの里熊牧場

マタギの里熊牧場は、ふれあい牧場として、野生ではめったに見られないツキノワグマ110頭が飼育されています。

今年も1月から2月にかけて4頭的小熊が誕生し、親熊の母乳を飲みながら生後数カ月で体長25cm程に成長した小熊たちは、親熊に寄り添い甘える仕草や動き回る動作もあどけなく人間の子供と同じです。

今シーズンから開設する「こぐまの保育園」の鈴木園長は「季節に応じた園の行事に趣向を凝らし、来場者とのふれあいを大事にしながら小熊たちの成長を見守って行きたい」と話しています。

入園前の4頭的小熊たちは、親離れをしてハイハイや木登りのための練習に余念がありません。



あどけない表情で動き回る小熊